４つの財務書類からみた越谷市の財政

（平成２４年度決算版）

※表中、表示単位未満は四捨五入のため合計が一致しない場合があります。

貸借対照表（バランスシート）

平成24年度末時点において、越谷市単体および第三セクター等を含めた連結ベースで市の資産がどれだけあり、その資産をどのような財源（負債・純資産）でまかなってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に「資産」を表示し、右側に「負債」および資産と負債の差額である「純資産」を計上しています。

貸借対照表から越谷市の財政状況を見ますと、将来世代の負担といえる「負債」に対し、これまでに整備された「資産」が約4倍あり、財政の健全性は十分確保されているといえます。

（表示単位：百万円）

資産の部（これまで積み上げてきた資産）		越谷市単体	連結
1 金融資産	（1）資金 現金・預金など	11,028	17,684
	（2）債権 未収金・貸付金など	7,947	8,617
	（3）有価証券	0	2,485
	（4）投資等 出資金・基金など	18,114	20,855
2 非金融資産	（1）事業用資産 庁舎、保育所、学校、福祉施設など	146,943	171,951
	（2）インフラ資産 道路、公園、上下水道など	402,609	457,624
	（3）その他資産 繰延資産など	0	13
資産合計		**586,641**	**679,231**

負債の部（将来の世代が負担する金額）		越谷市単体	連結
1 流動負債	（1）公債（短期） 公債残高のうち翌年度償還予定額	12,101	12,281
	（2）その他 未払金のうち翌年度支払予定額など	1,693	2,890
2 非流動負債	（1）公債 公債残高のうち翌々年度以降償還予定額	112,316	127,957
	（2）退職給付引当金	19,803	20,117
	（3）その他 未払金のうち翌々年度以降支払予定額など	3,825	21,978
負債合計		149,737	185,224
純資産の部（現在までの世代が負担した金額）			
純資産合計		436,904	494,007
負債および純資産合計		**586,641**	**679,231**

資金収支計算書（キャッシュフロー計算書）

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて、区分して表示することで、市がどのような活動に資金を必要としているのかを示しています。（表示単位：百万円）

	越谷市単体	連結
期首資金残高	**9,648**	**15,128**
当期収支	1,380	2,556
（1）経常的収支 人件費支出、税収入、国庫補助金など	18,213	24,515
（2）資本的収支 公共資産整備支出、固定資産売却収入など	△ 12,213	△ 14,306
（3）財務的収支 元利償還金支出、市債発行収入など	△ 4,621	△ 7,653
期末資金残高	**11,028**	**17,684**

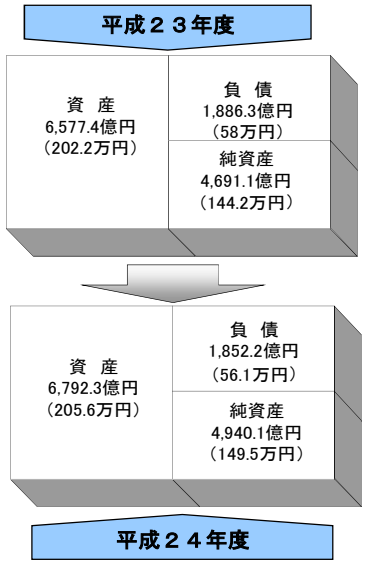
純資産変動計算書

市の純資産（資産から負債を引いた残り）が平成24年度中にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したのかを示しています。（表示単位：百万円）

	越谷市単体	連結
期首純資産残高	**415,233**	**469,108**
当期変動高	21,671	24,899
（1）純経常行政コスト 経常費用－経常収益	△ 108,192	△ 127,664
（2）財源調達 市税、国県補助金など	133,635	160,471
（3）その他 道路等の資産形成に充てられた財源	△ 3,772	△ 7,908
期末純資産残高	**436,904**	**494,007**

1年間でどれだけ変わった？（貸借対照表 連結ベース）

（ ）は越谷市の市民１人あたりの額



24年度は23年度に比べ、資産は増加し、負債は減少していることがわかります。負債対資産（負債比率）、純資産対資産（純資産比率）といった比率で見ると、資産に占める負債の比率が△1.4ポイント、純資産の比率は+1.4ポイントとなっていますので、将来負担を抑えつつ、将来世代のための資産形成をしているといえます。

行政コスト計算書

市の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差し引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。（表示単位：百万円）

経常費用	越谷市単体	連結
	125,596	**159,473**
1 人にかかるコスト 人件費、退職手当引当金繰入など	23,694	25,118
2 物にかかるコスト 物件費、減価償却費、維持補修費など	9,872	17,549
3 業務にかかるコスト 委託料、公債費（利子分）など	56,858	59,451
4 移転支出的なコスト 社会保障給付、補助金等移転支出など	35,172	57,355
経常収益	**17,405**	**31,808**
使用料・手数料等	17,405	31,808
純経常行政コスト（経常費用－経常収益）	**108,192**	**127,664**

●財政状況を単体ベース連結ベースで公表

越谷市は、市民の皆さんに市の財政状況をより理解していただくため、国が推奨する「新地方公会計制度　基準モデル」に基づいて、市や土地開発公社、第三セクターなどの関連団体も含めた連結ベースで4つの財務書類を作成しました。基準モデルでは、資産評価において原則公正価値に基づくなど、より実態に合った資産・債務情報を把握することができるといえます。

○越谷市単体…一般会計、公共用地先行取得特別会計、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険特別会計、東越谷土地区画整理特別会計、七左第一土地区画整理特別会計、西大袋土地区画整理特別会計、公共下水道特別会計、越谷駅東口駐車場特別会計、病院事業会計。

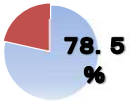
○連結…越谷市単体に越谷市土地開発公社、越谷市施設管理公社、越谷コミュニティプラザ(株)、(株)埼玉県東部流通センター、越谷・松伏水道企業団、東埼玉資源環境組合、埼玉県市町村総合事務組合、埼玉県都市競艇組合、彩の国さいたま人づくり広域連合、埼玉県後期高齢者広域連合を加える。

市の資産と負債の状況（連結ベース）

① 市民１人あたりの資産と負債

	資　産	負　債	負債の割合
平成24年度	205万6千円	56万1千円	（27．3%）
平成23年度	202万2千円	58万円	（28．7%）

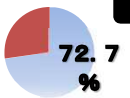
② 道路や公園など、今までの世代で負担が済んでいるもの



連結ベースで平成23年度は76．6%、平成24年度は78．5%となります。

道路や公園など社会資本に対する、現在までの世代の負担割合（社会資本形成の世代間比率）[純資産／（事業用資産＋インフラ資産）]で計算できます。平成23年度より1．9ポイント増加しており、将来への負担を極力抑え、負担を先送りしないよう健全な財政運営に努めています。

③ 純資産比率は



連結ベースで平成23年度は71．3%、平成24年度は72．7%となります。

市が持つ資産のうち負債を差し引いた正味の財産の割合を示す純資産比率[純資産合計／資産合計]で計算でき、越谷市は約7割となります。平成23年度より、1．4ポイント純資産が増加しています。